

【第5回荒川ウォーキング長瀬→葛西臨海公園】

2021年10月24日(日)

■往 路

乗車・乗換駅	発時刻	着時刻	
草加(区急館林行)	7:31	8:22	¥660
羽生	8:30	9:29	¥800
寄居	-	1:58	¥1,460

■コースタイム (見学時間を含む)

チェックポイント	時刻	所要時間	移動距離
寄居駅スタート	9:40	-	-
雀宮公園	10:20	0:40	0.8
玉淀水天宮	10:40	0:20	0.4
鉢形城公園	11:20	0:40	0.8
散策・昼食	13:00	1:40	-
埼玉川の博物館	13:40	0:40	2.3
見学・休憩	14:40	1:00	-
男衾駅ゴール	15:25	0:45	2.5
所要時間合計		5:45	6.8

■復 路

乗車・乗換駅	発時刻	着時刻	
男衾(おぶすま)	15:31	15:40	¥733
小川町(急池袋)	15:44	15:56	
森林公園(特急)	16:00	16:32	
朝霞台/北朝霞	16:44	17:05	¥396
南越谷/新越谷	17:13	17:18	¥168
草加駅	-	1:47	¥1,297

男衾駅発14:12, 42, 15:12, 31, 59
交通費: 2,757円

歩行距離: 約10km

埼玉川の博物館入館料: 410円

参加者: 16

原・高橋・笠原・森・加藤栄子

高原・青木・池澤・北爪・西山・中西・

前田・笠原・角田・桜井・小野寺



草加ハイキングの会

小野寺携帯: 090-8059-9668

寄居玉淀水天宮

昭和6年、玉淀を開発した保勝会の有志が、玉淀の景勝に加え神社を勧請して祭事を行うことを発願し、幸い下流樋の下の河辺山林にあった石宮を発見しました。調べたところ、この地方の漁師が水難よけに祭った水神様であることを知り、改めて水神様と水天宮様を合祀して、おまつりしたものであります。玉淀保勝会（寄居町観光協会の前身）では、水天宮祭祭典の付け祭りとして、昭和6年8月5日に第1回『玉淀水天宮祭花火大会』を開催して、たいへんな人気を集めました。以降、各町内からボンボリ、提灯で美しく飾りたてた舟山車が数隻参加し、城山をバックに打ち上げられる大花火と川面に映える万灯の競演は、『関東一の水祭り』と呼ばれています。

雀宮公園

歌舞伎の名優・七代目松本幸四郎の別邸跡地である雀宮公園。かつては地元を中心に親しまれていましたが、長きにわたり閉鎖されていました。町では、歴史的背景や市街地からのアクセスの良さ、また素晴らしい景観などから、平成29年に敷地を取得し、年々整備を重ねてきました。県と町が連携し水辺空間の利活用の推進を図る「川の国埼玉はつらつプロジェクト」では、幸四郎の愛した「武州寄居町雀亭」をイメージした東屋を建築し、園内中央部には南北を結ぶもみじ橋を設置しました。さらに、公園の整備のほか、玉淀遊歩道や玉淀親水遊歩道、親水広場・親水護岸を整備し、令和2年11月にリニューアルオープンしました。歌舞伎の名優・七代目松本幸四郎は（幼名：秦豊吉）は、1870（明治3）年、伊勢国員弁郡長深村（現在の三重県員弁郡東員町）で誕生しました。1874（明治7）年、父が事業家で各地を転々としていたこともあり、豊吉が4歳の年に、母と共に上京。京橋区（現在の東京都中央区）に落ち着いたころ、そこで虎屋饅頭の株を買い、駄菓子屋をはじめたといわれています。この駄菓子屋の顧客であった、藤間流家元の二代目藤間勘右衛門には子がいなかったため、豊吉を藤間家の養子として、踊りを厳しく仕込んでいきました。豊吉は、11

歳になると市川團十郎の門に入り、次々と歌舞伎俳優としての頭角を現していき、1911（明治44）年に七代目松本幸四郎を襲名しました。幸四郎は、恵まれた容貌、堂々たる口跡に裏打ちされた風格のある舞台上、時代物、荒事に本領を発揮し、特に、九代目市川團十郎の直系の芸である「勧進帳（かんじんちょう）」で武蔵坊弁慶を演じては、彼の右に出る者はなく、生涯を通じて1600余回演じ、不朽の演技として後世に語り継がれることになりました。幸四郎は、1949（昭和24）年に80歳で亡くなりました。子に十一代目市川團十郎、初代松本白鸚（八代目松本幸四郎）、二代目尾上松緑、孫に二代目松本白鸚（九代目松本幸四郎）、また、十代目松本幸四郎、松たか子、十一代目市川海老蔵は曾孫に当たります。

鉢形城

鉢形城跡は、荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の上の天然の要害の平山城。この地は、交通の要所に当たり、上州や信州方面を望む重要な地点。鉢形城は1476年（文明8年）関東管領であった山内上杉氏の家宰長尾景春が築城したと伝えられる。その後、この地域の豪族藤田泰邦に入婿した小田原の北条氏康の四男氏邦が整備拡充し、現在の規模となった。北条氏による北関東支配の拠点として重要な役割を担った。1590年（天正18年）の豊臣秀吉による小田原攻めの際には、後北条氏の重要な支城として氏邦は3千の兵とともに籠城。5月13日、前田利家・上杉景勝等の北国軍3万5千人に包囲され攻防戦を展開したが、1ヶ月余りにおよぶ籠城の後に、氏邦は6月14日、城兵の助命を条件に開城し、城は廃城となった。

埼玉県立川の博物館

1997年8月1日に「埼玉県立さいたま川の博物館」で「川と水と人々の暮らし」をテーマとして開館した。2006年4月1日からは、県立博物館等の再編に伴い、長瀨町にある「埼玉県立自然史博物館」とともに「埼玉県立自然と川の博物館」として統合され、現在の名称となった。荒川をメインとした展示を主に行っている。博物館の入口には荒川の模型がある。